

郡山市上下水道局週休2日促進モデル工事实施要領

令和4年4月22日制定

令和6年4月18日一部改正

〔上下水道局総務課〕

(趣旨)

第1条 この要領は、建設業の働き方改革を促進するため、郡山市上下水道局が発注する建設工事（修繕を含む）において週休2日促進モデル工事（以下、「モデル工事」という。）を実施するにあたり、必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要領において用いる用語の定義は、次の各号のとおりとする。

- (1) 週休2日とは、対象期間において、4週8休以上の現場閉所（現場休息を含む）を行ったと認められる状態をいう。
- (2) 対象期間とは、現場着工日（現場に継続的に常駐した最初の日）から現場完了日までの期間をいう。ただし、年末年始休暇7日間、夏季休暇4日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされている期間など）は含まない。
- (3) 現場閉所とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。
- (4) 現場休息とは、分離発注工事の場合において各発注工事単位で、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態をいう。
- (5) 4週8休以上とは、対象期間内の現場閉所日の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、**別表第1**の水準に達した状態とする。
- (6) 受注者希望型とは、受注者が工事契約後、施工計画書提出前までに週休2日等の実施可否について、監督員と協議した上で取り組む方式をいう。
- (7) 発注者指定型とは、発注者が週休2日に取り組むことを指定する方式をいう。

(対象工事)

第3条 この要領の対象となる工事等は、本市上下水道局発注の工事及び修繕すべてとする。ただし、災害復旧工事等、緊急性のある工事及び修繕又は工程上の制約により、休日の確保が困難であると判断される工事を除くものとする。

2 対象外とした工事及び修繕であっても、受注者が週休2日の実施を希望する場合は、受発注者協議の上で対象工事とすることが出来るものとする。

(実施方法等)

第4条 モデル工事の実施方法等は、次の各号のとおりとする。

- (1) 受注者希望型においては、受注者は工事契約後、施工計画書提出前までに週休2日等の実施可否について監督員と協議するものとする。
- (2) モデル工事に取り組む場合、受注者は、施工計画書に週休2日相当の休日を確保した工程表を

添付し、監督員に提出するものとする。なお、分離発注工事の受注者は、受注者間で協力し、工事進捗に影響がないよう現場休息予定日を調整した上で工程表を作成するものとする。

- (3) 受注者は、対象期間中、工事現場にモデル工事の対象である旨を明示するものとする。
- (4) 受注者は、工程表で定めた休日は、下請企業を含む工事現場の全労働者を休日又は休暇とするものとする。
- (5) 受注者は、対象期間中、やむを得ない理由で休日と定めた日に作業を行う場合は、振替休日を設定し、事前に監督員と協議するものとする。
- (6) 受注者は、毎月、工事履行報告書に現場閉所の実績を記入した実施工程表を添付し、監督員に提出し、監督員は実績を確認するものとする。
- (7) 受注者は、監督員から求められた場合、下請企業を含めた全労働者の休日取得状況について、出勤簿、工事日誌等の工事現場労働者勤務状況がわかる書類を添えて週休2日の達成状況を報告し、監督員は実績を確認するものとする。
- (8) 受注者は、週休2日等の達成状況により行われた補正を下請契約にも反映させるものとする。
- (9) 監督員は、受注者の週休2日等の取り組みに対し支障が出ないように、全体工程に影響を与える工事立会や協議等について迅速に対応するとともに、緊急性がある場合を除き、資料作成を含め現場閉所日に作業が生じないように適切に指示等を行うように努め、工程調整等に配慮するものとする。

(積算方法等)

第5条 モデル工事の設計価格は、次の各号により積算するものとする。

- (1) 工期は、4週8休対応の標準工期以上の期間とする。
- (2) 当初設計価格は、4週8休以上の補正率を適用し、工事費を積算するものとする。
ただし、受注者希望型については、補正なしで工事費を積算できるものとする。
- (3) 土木工事の補正項目及び補正率は、別表第2、第3のとおりとする。
- (4) 建築関係工事の補正項目及び補正率は、別表第4、第5、第6、第7のとおりとし、別表第8により算定するものとする。
- (5) 現場完了日時時点で現場閉所の達成状況を確認し、4週8休以上を確保できなかった場合は当初積算時の補正を減額する。ただし、受注者希望型において、補正なしで工事費を積算したものについては、4週8休以上の現場閉所率を確保できた場合、該当する条件へ設計変更するものとする。
- (6) 受発注者協議によりモデル工事の対象となった工事及び修繕については、4週8休以上の現場閉所率を確保できた場合、該当する条件へ設計変更するものとする。

(特記仕様書等)

第6条 モデル工事については、受注者希望型又は発注者指定型の工事である旨等を特記仕様書等に記載するものとする。

(工事成績評定)

第7条 工事成績評定は、達成状況により該当する項目を別表第9により加減点するものとするが、

令和6年度に起工するものについては、減点評価を行わない。

(その他)

第8条 この要領に定めのない事項及び疑義が生じた場合は、関係部局と協議しその都度定めるものとする。

附 則

この要領は、令和4年5月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和5年5月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和6年4月18日から施行する。

別表第1（第2条関係）

週休の区分

区分	4週8休以上
現場閉所状況	4週8休以上
現場閉所率	28.5%以上

備考 現場閉所日には、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても含めるものとする。

別表第2（第5条第3項関係）

土木工事の補正

（ ）内は水道工事

区分	4週8休以上
労務費	1.05 (1.05)
機械経費(賃料)	1.04 (1.04)
共通仮設費	1.04 (1.04)
現場管理費	1.06 (1.06)
現場管理費（農業農村整備事業）	1.09

備考 工場製作に要する費用、見積により機労材一式の施工単価については補正の対象としない。

別表第3（第5条第3項関係）

土木工事の補正（市場単価、標準単価）

（ ）内は水道工事

名称	区分	4週8休以上
鉄筋工		1.05 (1.05)
ガス圧接工		1.04 (1.04)
インターロッキングブロック工	設置	1.02 (1.02)
	撤去	1.05 (1.05)
防護柵設置工(ガードレール)	設置	1.01 (1.01)
	撤去	1.05 (1.05)
防護柵設置工(ガードパイプ)	設置	1.01 (1.01)
	撤去	1.05 (1.05)
防護柵設置工 (横断・転落防止柵)	設置	1.04 (1.04)
	撤去	1.05 (1.05)
防護柵設置工(落石防護柵)		1.02 (1.02)
防護柵設置工(落石防止網)		1.03 (1.03)
道路標識設置工	設置	1.01 (1.01)
	撤去・移設	1.04 (1.04)
道路付属物設置工	設置	1.02 (1.02)
	撤去	1.05 (1.05)
法面工		1.02 (1.02)
吹付砕工		1.03 (1.03)
鉄筋挿入工(ロックボルト工)		1.03 (1.03)
道路植栽工	植樹	1.05 (1.05)
	剪定	1.05 (1.05)

公園植栽工		1.05 (1.05)
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.02 (1.02)
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.04 (1.04)
橋面防水工		1.02 (1.02)
薄層カー舗装工		1.01 (1.01)
グルーピング工		1.01 (1.01)
軟弱地盤処理工		1.02 (1.02)
コンクリート表面処理工 (ウォータージェット工)		1.01 (1.01)
硬質塩化ビニル管設置工		1.03
リブ付硬質塩化ビニル管設置工		1.03
砂基礎工	人力施工	1.05
	機械施工	1.05
砕石基礎工	人力施工	1.05
	機械施工	1.05
組立マンホール設置工		1.05
小型マンホール工		1.01
取付管及びます設置工	ます設置工	1.01
	取付管・支管	1.02

備考 市場単価について、週休2日の補正係数を乗じた補正済の単価を算出する。

標準単価については、「建設物価(土木コスト情報)」及び「積算資料(土木施工単価)」に掲載の単価を使用しており、補正済み単価(同工種)が物価資料(「建設物価(土木コスト情報)」、「積算資料(土木施工単価)」)の両方に掲載されている場合は、その平均価格とし、片方の資料のみに掲載されている単価は、当該単価とする。

別表第4 (第5条第4項関係)

建築関係工事の補正(複合単価)

区分	4週8休以上
労務費	1.05

備考 複合単価は、福島県土木部実施設計単価表の労務単価に上記の補正係数を乗じて補正する。
改修割増率を適用した場合はさらにこれに乗じる。

別表第5 (第5条第4項関係)

建築工事の補正(市場単価等)

工種	摘要*	4週8休以上	
		新営	改修
仮設工事		1.03	1.03
土工事		1.03	1.03
地業工事		1.03	1.03
鉄筋工事		1.04	1.04
コンクリート工事		1.04	1.04

型枠工事		1.03	1.03
鉄骨工事		1.04	1.04
既製コンクリート		1.03	1.03
防水工事	市場単価	1.02	1.09
防水工事(シーリング)	市場単価	1.04	1.17
防水工事	物価資料	1.02	1.02
石工事		1.02	1.02
タイル工事		1.03	1.03
木工事		1.02	1.02
屋根及びとい		1.02	1.02
金属工事	市場単価	1.02	1.11
金属工事	物価資料	1.02	1.02
左官工事(仕上塗材仕上)	市場単価	1.04	1.04
左官工事(仕上塗材仕上以外)	市場単価	1.04	1.18
左官工事	物価資料	1.04	1.04
建具(ガラス)	市場単価	1.02	1.12
建具(シーリング)	市場単価	1.04	1.19
建具	物価資料	1.02	1.02
塗装工事	市場単価	1.04	1.18
塗装工事	物価資料	1.04	1.04
内外装工事	市場単価	1.03	1.15
内外装工事(ビニル系床材)	市場単価	1.02	1.10
内外装工事	物価資料	1.03	1.03
内外装工事(ビニル系床材)	物価資料	1.02	1.02
ユニットその他		1.01	1.01
排水工事		1.03	1.03
舗装工事		1.02	1.02
植栽及び屋上緑化		1.03	1.03
撤去	各工種による		
取り壊し		1.03	1.03

備考 上記に記載がないものは、市場単価、補正市場単価及び物価資料の掲載価格に共通の補正率を乗じて補正する。

別表第6 (第5条第4項関係)

電気設備工事の補正 (市場単価等)

工種	摘要*	4週8休以上	
		新営	改修
配管工事	電線管、2種金属線び及び同ボックス	1.04	1.22
	ケーブルラック	1.03	1.17
	位置ボックス及び位置ボックス用ボンディング	1.03	1.21
	プルボックス	1.02	1.15

配管工事	プルボックス用接地端子	1.00	1.00
	防火区画貫通処理 ケーブルラック用(壁・床)	1.03	1.16
	防火区画貫通処理 金属管・丸型用	1.01	1.06
	(電動機その他接続材工事) 金属製可とう電線管	1.03	1.17
配線工事	600V 絶縁電線及び 600V 絶縁ケーブル	1.03	1.20
接地工事 (屋外)	(接地極工事) 銅板式、銅覆鋼棒、 接地極埋設標(金属製)	1.03	1.03

別表第7 (第5条第4項関係)

機械設備工事の補正 (市場単価等)

工種	摘要*	4週8休以上	
		新営	改修
保温工事	配管用	1.03	1.18
	ダクト用及び消音内貼	1.03	1.18
ダクト設備	低圧ダクト、排煙ダクト及び 低圧チャンパー類	1.03	1.18
ダクト付属品	既製品ボックス、制気口、 ダンパー等の取付手間のみ	1.04	1.25
衛生器具設備 (ユニットを除く)	取付手間のみ	1.04	1.25

別表第8 (第5条第4項関係)

市場単価及び補正市場単価の算定式

種別	区分	算定式	
市場単価 補正市場単価	新営工事	市場単価	× 新営補正率
		補正市場単価	× 新営補正率
	全館無人改修 (基準単価の算定)	市場単価	× 新営補正率
		補正市場単価	× 新営補正率
物価資料の 掲載単価	執務並行改修 (基準補正単価の算定)	市場単価	× 改修補正率
		補正市場単価	× 改修補正率
	新営工事	物価資料の掲載単価	× 新営補正率
		全館無人改修 執務並行改修	物価資料の掲載単価 × 改修補正率

別表第9（第7条関係）

工事成績評定の採点

区分	未達成	4週8休以上	備考
受注者希望型	加減点なし	2点加点	第1評定 5創意工夫
発注者指定型	加減点なし	2点加点	第1評定 5創意工夫
	d判定		第1評定 2施工状況 「Ⅱ工程管理」
	評価対象項目3 を評価しない (×とする)		第2評定 2施工状況 「Ⅱ工程管理」

備考 2 施工状況 「Ⅱ工程管理」の評定については、受注者の責により4週8休以上の現場閉所率が確保できなかった場合に行う。